

早稲田大学 理工学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分
特徴・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・英文設問の形式。 ・前年よりも問題数は増加しているが、素直な問題が多い。時間配分の工夫が必要。 ・そこそこのレベルを保ちつつ、なるべく受験者に得点させようという出題意図が伺える。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	長文読解問題 A：内容把握 B：内容一致	<p>A：キーワードになる単語が明確なので、解き易い。指示語や接続詞に注意して読むこと。</p> <p>B：前から順に出題する形式なので、テクニックがあれば文章全体を読まなくても解ける。副詞等が多いので、構造が解らず、単語や熟語を拾い読みしている人には難しく感じるであろう。</p>	標準
	文完成問題	イディオム(熟語)なので、暗記物だけで解ける。	やや易
	会話文完成問題	疑問文と応答が中心に作成されている。選択肢は、あまり悩むものは無い。	やや易
	短文読解問題	ある意味、長文よりも読解力を問われる。ありがちな、文の前の方ばかりに集中する読み方は不利。	やや難
	A：空所補充問題	共通語補充問題：1つの単語に複数の意味、用法を整理しておくことが必要。	標準
	B：同義文完成問題	書き換え：1つの日本語に対して、いくつかの英文を考えられるか、暗記物を単発でなく、体系的に整理する勉強が必要。	標準

〔総合コメント〕

以前見られたような、文法的な難問は無く、代わって総合的な英語力を問う設問になっている。大問毎に出題意図のバランスも良く、片寄った勉強をしている受験生には厳しいかもしれない。うろ覚えの暗記に頼らず、理論的に考える語彙力、文法力、読解力を養っておくと、全体に解り易い、親切な問題が多いことに気づくだろう。

結局、問題も多少易しくなっているが、現在の受験生の学習量も少なくなっているのも、その所の兼ね合いの問題である。油断しないように。